

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	76	学校名	静岡県立浜松東高等学校	校長名	鈴木 真一
------	----	-----	-------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

浜松市内唯一の商業科と普通科を併置した学校としての特色を生かし、校訓「学ぶ術を学ぶ」のもと、志を掲げ、健康で安全な学校生活を送ることで、たくましく生きる力を養う。また、多様な進路希望に対応したキャリア教育や総合的な探究活動、部活動等を通して、生涯にわたって学び続ける力を身に付けるとともに、自立心と思いやりの心を持ち、地域や社会に貢献する人間性豊かな生徒を育成します。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>・校訓「学ぶ術を学ぶ」を目標とし、たくましく生きる力と生涯にわたって主体的に学ぶ姿勢を育成します。</p> <p>・地域社会に貢献するために必要なコミュニケーション能力、チャレンジ精神を身に付けた人間性豊かな生徒を育成します。</p> <p>・基礎学力の定着と進路実現に必要な学力の育成を行います。</p> <p>・キャリア教育及び総合的な探究の時間を通して、主体的に行動する力、自己管理能力、仲間とともに困難を乗り越える力を育成します。</p>	<p>(全校共通)</p> <p>生徒の目標達成に対してのサポートと健康で安全な学校生活を送るための指導、支援を行います。</p> <p>(商業科共通)</p> <p>・実社会で活用できるビジネススキルの習得を目指します。</p> <p>・資格取得や各種検定、競技会への挑戦等を通して、社会に適應する力、学ぶ意欲、チャレンジ精神などを養います。</p> <p>・外部講師を招く他、地域と連携した学習を行います。</p> <p>(情報ビジネス科)</p> <p>・情報スキルの学習活動を通して、物事を解決するための実践的思考を育てます。</p> <p>・商業に関する上位の資格取得に挑戦し、進学・就職の進路目標の実現に繋がります。</p> <p>(総合ビジネス科)</p> <p>・地域のイベントへの参加や地元産業界と連携し、自らのアイデアや積極性を発揮するための実践的・体験的な学習を行います。</p> <p>・グローバル経済や観光ビジネス等、新しい学習内容に関する知識及び技術を学び、創造的な企画力や開発に取り組む態度を育てます。</p> <p>(普通科)</p> <p>・基礎学力をバランスよく定着させ、柔軟な選択により多様な進路目標の実現を目指した学習を行います。</p> <p>・商業科目の資格を取ることができるカリキュラムを充実させます。特に教科「情報」に関しては、情報ビジネス科の資産を生かし、充実した内容の学習を行います。</p>	<p>(全校共通)</p> <p>個性を認め合い、友人と協力して目標を達成する力を身に付け、たくましく生きていこうとする生徒。</p> <p>(商業科共通)</p> <p>・商業に対する興味・関心が強く、将来ビジネス分野で活躍したい生徒。</p> <p>・自ら学ぼうとする姿勢や向上心を持ち、商業科目や資格取得に向け積極的に取り組む生徒。</p> <p>(情報ビジネス科)</p> <p>・情報スキルを実社会で活用し、それを生かした職業への関心が高い生徒。</p> <p>・商業に関する高度な資格の取得を志し、粘り強く取り組むことのできる生徒</p> <p>(総合ビジネス科)</p> <p>・地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考えている生徒。</p> <p>・新しいビジネスや商品に関心を持ち、学んだ知識を地域や企業で発揮しようと志す生徒。</p> <p>(普通科)</p> <p>・自らの可能性を信じ、高い目標を持って夢を実現させる意欲のある生徒。</p> <p>・規律や規範を守り、礼儀正しく、他者を思いやることのできる生徒。</p>

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 安心・安全な学習環境の整備と健全な心身の育成
- イ 基礎学力の定着と進路実現に必要な学力の育成
- ウ 地域に貢献する探究活動を通じたキャリア教育の充実
- エ 信頼される学校づくりの推進
- オ 教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載） スローガン…「学ぶ術を学ぶ探究」

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	たくましく生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒への日常的な声掛け（勇気づけ・価値づけ） ・教員からの挨拶の励行 ・初期指導での人間関係づくり ・毎月実施する朝礼での講話 ・ポートフォリオへの記入を通じた自己認識の深化 ・部活動への積極的な参加 ・豊かな感性をはぐくむ芸術鑑賞教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「欠席・遅刻・早退をしないように心掛けている」と答える生徒 90%以上。 ・定期的な挨拶運動の実施 ・「学校行事に積極的に参加し、人間関係が充実してきたと思う」と答える生徒 80%以上。 ・「集団の中の一員として仲間を尊重し、行動できる」と答える生徒 80%以上。 ・「部活動で頑張っている」と答える生徒 90%以上。 ・「芸術鑑賞教室が良かった」と答える生徒 80%以上。 	全職員 教務 保健厚生 生徒 図書 学年
	生徒が相談しやすい体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から提供された情報の活用 ・生徒との定期的な面談の設定 ・SCやSSW等の外部機関との連携 ・発達支持的生徒指導や特別支援に関する知識や技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みを相談できる人がいる」と答える生徒 80%以上。 ・発達支持的生徒指導や特別支援教育に関する研修の実施 	全職員 保健厚生 生徒 研修 学年
	規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの使い方指導等を通じた情報モラルやルールの習得 ・身だしなみ指導 ・明るく温かい、気持ちの良い挨拶の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日頃から個人情報の取扱い等に注意している」と答える生徒 90%以上。 ・「学校のきまりを守って生活している」と答える生徒 80%以上。 ・「さわやかな挨拶ができ、身だしなみに気を付けている」と答える生徒 80%以上。 	生徒 学年
	災害及び交通事故から身を守る意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月実施する朝礼での交通指導 ・防災訓練の工夫（新たな取組の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「交通ルールを守っている」と答える生徒 90%以上。 ・「災害発生時に備え、時と場に応じた避難先・経路を把握している」と答える生徒 80%以上。 	生徒 総務

様式第1号

	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃の徹底 ・教室及び部室の整理整頓 ・美化委員による定期点検 ・私物管理の徹底 ・ごみの持ち帰りの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日頃から私物の整理整頓、教室等の環境整備（清掃含む）を意識している」と答える生徒80%以上。 	保健厚生 学年
	危機管理対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の危機管理対応に対する意識とスキルの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理対応に関する研修を実施する。 	管理職
イ	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に真剣に取り組む姿勢の確立 ・朝学習（朝読書）の効果的な方法の検討・実施 ・確認テストの継続実施 ・A I 学習教材の効果的な活用方法の検討 ・図書委員会による読書啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容に興味・関心が持てた」と答える生徒90%以上。 ・「朝学習（朝読書）が基礎学力向上に役立っている」と答える生徒80%以上。 	各教科 学年 図書
	探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの意見や学びの成果を発表する実践的・体験的学習活動の実施 ・「総合的な探究の時間」の3年間のカリキュラムの見直し ・探究活動に関する研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んだことについて、考え、表現する力を伸ばすことができた」と答える生徒80%以上。 ・「総合的な探究の時間での探究活動を通して、成長を実感している」と答える生徒60%以上。 ・総合的な探究の時間検討委員会の定期的な開催 	教務 研修
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観の実施 ・生徒による授業アンケートの実施 ・授業アンケート等を通じた観点別評価の見直し ・一台端末等のICTを活用した授業の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の授業参観と年2回の生徒による授業評価が活用されている。 ・「授業の内容に興味、関心を持てた」と答える生徒80%以上。 ・「授業やHR活動等で、一台端末を活用した情報の送受信や、授業の課題提出を実施した」と答える生徒90%以上。 	全職員 研修 各教科
	資格取得への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科生徒の資格取得への目標設定と積極的な挑戦 ・漢検・英検への積極的な挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら設定した資格取得に対する目標を達成する生徒の割合80%以上 	商業科 国語科 英語科
ウ	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での交流・連携 ・課外活動（部活動を含む）での地域貢献 ・商業科生徒による新たな地域貢献の創出 ・大学や企業との連携 ・インターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年行事や授業等で行った地域連携学習に携わった」と答える生徒が50%以上。 ・「課外活動（部活動を含む）で行った地域連携学習に携わった」と答える生徒50%以上。 ・「社会に役立つ姿勢や資質を身に付ける教育が行われている」と答える生徒、保護者80%以上。 ・「学校外の諸活動を通して、学校と地域との連携の重要性を体感できた」と答える生徒80%以上。 	商業科 各教科 学年 部活動

様式第1号

	進路学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路シラバスに基づいたキャリア教育の推進 ・進路希望に沿った個人指導の充実 ・大学との教育交流協定の活用や外部からの積極的な講師招聘 ・ガイダンスや進路講話を通じたキャリア意識の醸成 ・外部の進路ガイダンスへの積極的な参加の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来の生き方(進路等)について考えている」と答える生徒 90%以上。 ・「生徒の適性や希望を生かす適切な進路指導を行っている」と答える生徒、保護者 80%以上。 	進路指導 学年
エ	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会への情報発信 (「浜東PTAレポート」、「浜松東高かわら版」、「浜松東高新聞」) ・地域の方が各種行事に参加できる環境づくり ・中学校への広報活動 ・学校ホームページやInstagramによる情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の回覧版で情報提供をする。 ・学校紹介や出前授業等による中学校への訪問 年間 50 校以上。 ・来場者数 浜東祭：1,000人以上。 一日体験入学：1,000人以上。 オープンスクール 300人以上 	総務 管理職 情報管理 生徒 教務
	保護者との良好な信頼関係の構築及び情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・Cラーニングの効果的な活用 ・Cラーニングによる双方向の情報交換 ・必要に応じた電話連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者に対して行事や進路等の情報提供が適切に行われている」と答える保護者 80%以上。 ・情報の発信がPTA総会、発行物、Cラーニング等により定期的に行われている。 ・「お子さんを本校に入学させて良かった」と答える保護者 90%以上 	教務 情報管理 進路指導 学年
オ	協働意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの職員間での挨拶や声掛けの励行 ・優れた指導や実践を行ったチームや教職員に対する評価・共有 ・プチ研修の実施 ・年次研修におけるチーム研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打合せや職員会議等の隙間時間を活用したプチ研修を実施する ・年次研修対象者が、チーム研修を通して成長したと実感している。 	全職員 管理職 事務部
	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有及び共通理解 ・業務の目的の明確化 ・NES端末更新後の更なるペーパーレス化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案資料には目的を記載する。 ・運営委員会をペーパーレスで実施する。 	
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の内容や進め方の見直し ・定時退勤日の設定 ・職員室最終退出時刻の設定 ・勤務時間管理システムの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック集団分析でのストレスリスクを確認する。 ・出張による振替や変形労働制度を積極的に利用し、超過勤務の負担軽減に繋げる。 ・勤務時間管理システムで自らの働き方を把握する。 	
	効果的な予算執行	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性、優先順位の精査による予算確保 ・教職員からの要望を集約、必要な修繕・購入品等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理的予算を当初予算比5%削減し、教育活動に係る経費に充てる。 ・「できないこと」は理由を示し、「できること」は執行計画を明確に示していく。 	

様式第1号